年間第11週日曜日・ B年 89. からし種

年間第11週日曜日・B年

89. からし種

- 主は、小さなものをお使いになってこの世で人々の中で働かれる。
- 一 使徒職活動で困難なことがあっても落胆してはならない。主は私たちの日常生活の場を改善しようと私たちを頼られる。
- 一神は私たちの砦。イエス・キリストの教えを伝える私たちを邪魔する、偽りの世間体を追い払う努力。

89.1 神は、霊魂に働きかけるため に、小さなことを利用される

「主なる神はこう言われる。わたしは高いレバノン杉の梢を切り取って植え、その柔らかい若枝を折って、高くそびえる山の上に移し植える。

イスラエルの高い山にそれを移し植 えると、それは枝を伸ばし実をつ け、うっそうとしたレバノン杉とな り、あらゆる鳥がそのもとに宿り、 翼のあるものはすべてその枝の陰に 住むようになる。そのとき、野のす べての木々は、主であるわたしが、 高い木を低くし、低い木を高くし、 また生き生きとした木を枯らし、枯 れた木を茂らせることを知るように なる。主であるわたしがこれを語 り、実行する | ¹。今日のミサの第 1 朗読からとられた、預言者エゼキ エルの美しい言葉は、世の中や霊魂 の内に働きかけるために、神がどの ように小さなことを利用されるか、 思い出させてくれます。イエスはこ れと同じ事を教えておられます。 「神の国は、からし種のようなもの である。土に蒔くときには、地上の どんな種よりも小さいが、蒔くと、 成長してどんな野菜よりも大きくな り、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほ ど大きな枝を張る」2。

主は、福音を伝えるために数人の 人々を選ばれました。大部分は学問 がなく、欠点だらけの、財産のない 貧しい漁師でした。「神は力ある者 に恥をかかせるため、世の無力な者 を選ばれました」³。純粋に人間的 な見方をすれば、この人たちがそれ ほどの短い期間に当時知られていた 世界全体に、多くの妨げと反対に打 ち勝ちながら、どのようにキリスト の教えを広めることができたか説明 することはできません。聖ヨハネ・ クリゾストモは、からし種のたとえ の中でこう記しています。イエスは 弟子たちに、どんなことがあっても 福音宣教は行うことができるという 信仰と確信を持つように勧められて います⁴。

私たちもまた、社会の中で神から与えられた仕事においてはからし種のようなものです。私たちの持っている手段、つまり才能と、しなければならない使徒職の重大さとの間の不

釣り合いを忘れるべきではありませ ん。しかし、常に神の助けに頼るこ とができることも忘れるべきではあ りません。困難が生じれば、私たち は自分の価値のなさにもっと気づく でしょう。このお陰で、私たちは、 主に、そして成し遂げようとしてい る仕事の超自然的特徴に、もっと信 頼をもつようになるはずです。「戦 いと困難のとき、おそらく〈善良な 人々〉が無数の障害物を置いてあな たの道の邪魔をするときには、使徒 としての心をあげ、からし種とパン 種の話をなさるイエスに耳を傾けな さい。そして使徒たちのように、 『たとえ話の意味を説明してくださ い』とお願いしなさい。すると、や がて手に入れる勝利を眺めて喜びに 浸(ひた)るだろう。今始めたばかり の使徒職という木に宿る空の鳥と. 膨(ふく)れあがった練(ね)り粉全体

が見えることだろう | ⁵。

私たちの無力さと恩恵の力を見失わなければ、私たちは常に強く、神が要求されることに忠実でいることでしょう。もし私たちがイエスから目を逸らせば、落胆したり、悲観的になったり、すぐに仕事を放棄するでしょう。神と一緒なら何でもできます。

89.2 困難が私たちを落胆させる事は ない

真理を偽りに替え、造り主の代わり に造られた物を拝んでこれに仕えた のです。造り主こそ、永遠にほめた たえられるべき方です。それで、神 は彼らを恥ずべき情欲にまかせられ ました。女は自然の関係を自然にも とるものに変え、同じく男も、女と の自然の関係を捨てて、互いに情欲 を燃やし、男どうしで恥ずべきこと を行い、その迷った行いの当然の報 いを身に受けています。彼らは神を 認めようとしなかったので、神は彼 らを無価値な思いに渡され、そのた め、彼らはしてはならないことをす るようになりました。あらゆる不 義、悪、むさぼり、悪意に満ち、ね たみ、殺意、不和、欺き、邪念にあ ふれ、陰口を言い、人をそしり、神 を憎み、人を侮り、高慢であり、大 言を吐き、悪事をたくらみ、親に逆 らい、無知、不誠実、無情、無慈悲 です」⁶。

社会の中から働きかけることによっ て、キリスト信者は、社会を変えま した。そこに種が落ち、それから世 の中全体に広まります。それは小さ い種であるけれども、神の力を伝え ました。なぜなら、その種は、キリ ストのものだからです。ローマに来 た初代キリスト信者は、私たちと少 しも違っていませんでした。ただ神 の助けによって、他のすべての人と 同じ仕事を仲良く協力して果たしな がら、彼らと同じ問題に直面し、神 の掟に直接背かない限り、同じ掟に 従い、効果的な使徒職をすることが できました。エルサレム、アンティ オキア、ローマの最初のキリスト信 者は、実に、広大な畑の中で見かけ 上は見失われた小さなからし種だっ たのでした。

世の中は、時には、聖パウロが言い表したもののように見えますが、私たちは、障害に出会って、意気消沈しないようにしなければなりませ

ん。神は、私たちが生活し働いてい る所を変えるよう、私たちを当てに しておられます。私たちができるこ とは、からし種のように小さく、た いして重要でないように見えるかも 知れないけれども、できることを行 うことを怠らないことです。神は私 たちの熱意をさらに大きく燃え上が らせ、私たちの祈りと犠牲は実を結 ぶでしょう。私たちにできる〈僅か なこと〉は、同僚や友人が特別な本 を読むように助言すること、顧客、 通行人、仕事仲間に親切であるこ と、必要な時に援助の手を差し伸べ ること、病気の友人や近所の子ども たちのために祈ること、そして、彼 らが私たちのために祈るよう頼むこ と、告解に行くように誰かを助ける ことかも知れません。そして、常に 朗らかで、正直な生活を実行するこ とです。すべての人が、思慮深く、 落ち着いて、勇敢な使徒であるべき です。私たちが、神に一致し、安楽 を好む生活を拒み、生温さと落胆に

打ち勝つならできることです。「私たちが生きるように呼ばれたこの時代は、熱意と熱心さを常に持っているよう求められています。戦いさえずればそうできるでしょう。不屈の努力をする人だけが、世の中に平和、神の平和をもたらすのに相応しいのです」 7 。

89.3 偽りの世間体に打ち勝つ必要性

職業や専門職の仲間や近隣の人たち によって行われた福音の告知には、の非人に生き不らなかられたるがある。 は、つまがないではないではないでは、。。 のまないの人ないではでは、からではいる。 は、いかの信者をいるではいるがいる。 は、いからです」。 は、いからです」。 は、いからです」。

聖ヨハネ・クリゾストモがこう評しています。「誰かがあなたに近づ

き、『十字架につけられた人をあが めますか?』と尋ねるなら、恥ずか しさに赤面してうつむかず、非難を 栄光の機会として利用し、あなたの 目と顔の表情が恥じていることを表 さないようにしなさい。彼らが再び 耳もとで『何! 十字架につけられた 人をあがめるのか?』とささやくな ら、『はい、その人をあがめま す!』と答えなさい。私は、十字架 の力で悪魔を黙らせ、あらゆる迷信 を追い出した、釘づけにされた神を あがめ賛美します。私にとって十字 架は、神の愛と優しさの戦利品だか らです」10。立派な答えです。私た ち自身もこの答えを使うことができ ます。

初代キリスト信者から、人間的な尊敬を抑圧しないこと、他の人々が言うことを恐れないことを学ばなければなりません。むしろ、私たちはどこにいても、私たちが見出した宝、探し求めて突きとめた高価な真珠を

よく意識して、キリストを知っても らうことを案じなければいけません 12。人間的な尊敬に対する戦いは決 してなくなりません。真剣にキリス トにしっかりと従おうとし、信仰に 一致して生きようとしている時に、 頻繁に逆境に出合うからです。キリ スト信者と称する人々には、信仰を 証すべき時にあまり勇気を示さない 人たちが大勢います。彼らは、キリ ストの判断よりも他の人々の意見を ずっと気にしているようです。態度 を明らかにせずに、流れのままに流 されるのに甘んじているのです。こ の態度は、神への愛に深い確信が持 てず、ほとんど愛を持っていないこ とを表面的に示しています。当然の こととして、自分の生活の各瞬間、 あらゆる状況において、信仰に生き たいと望むキリスト信者らしく振舞 うことが難しくなるでしょう。しか し、このような時は、他の人がどう 思うかに頓着せず、公の意見に振り 回されずに、キリストに私たちの愛

を示す素晴らしい機会でもあります。「神は臆病な霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊を私たちにくださったのです。ですから、主を証しすることを恥じてはならない」 13 と、聖パウロはテモテ人に言っています。

これは、常に、福音化の仕事におけ る、私たちの先駆者の態度でした。 また、それ以前にも、ユダ・マカバ イの模範があります。イスラエルの 多くの者たちが、偶像に生贄を捧 げ、安息日を汚した時¹⁴、その父、 マタティアの模範に従い、彼とその 兄弟たちは、その非道な行為に反逆 して、神の誉れのもと、喜んでイス ラエルのために戦いました¹⁵。ユダ 自身が言ったように、「戦いの勝利 は兵士の数の多さによるのではな く、ただ、天の力によるのみだ l⁻¹ 6、このことは、初代の教会から現 代に至るまで、常に神についての事 柄において当てはまります。神はご

自分の仕事を行われるのに弱い者を使われます。私たちは、神の助けに欠くことはないでしょう。神は、私たちができる小さなことを、善のための大きな力に変えるのです。

キリストの十字架から、私たちが必要とする力と勇気が得られます。マリアを見ましょう。喚(わめ)き声にもひるまず、臆病で無名の群衆が勢いづいてキリストを手ひどく扱っても、贖い主に付き従って行かれる。

「〈信実なる処女(おとめ)〉と、力一杯、お呼びしなさい。忠実な処女!と叫び、神の友になる決心をした私たちが、嘘偽りなく、常に神の友でいることのできるよう助けをお願いしなさい」¹⁷。

(フランシスコ・フェルナンデス・ カルバハル『神との対話』)

- 1 エゼキエル17:22-24
- 2マルコ4:31-32
- ³ 1コリント1:27
- ⁴ 聖ヨハネ・クリゾストモ, Homilies on St Matthew's Gospel, 4 6 参照
- ⁵ 聖ホセマリア・エスクリバー、 『道』、695

- 6 □-マ1:24-31
- 7. アルバロ・ デル・ポルティー リョ、1976年12月8日の手紙
- 8 1コリント1:23参照
- ⁹ □-マ1:16

 $\frac{10}{2}$ 聖ヨハネ・クリゾストモ Homilies on the Epistle to the Romans, 2

12 マタイ13:45-46参照

13 2テモテ1:7-8

14 1マカバイ1:43参照

15 1マカバイ3:2参照

¹⁶ 1マカバイ3:18-19

¹⁷ ホセマリア・エスクリバー, 『坛』 5 1

『拓』,51

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-XI-nichi-B/ (2025/12/12)